

電源Ⅱ事前予約検証結果について (2018年8・9月分)

2018年11月7日
九州電力株式会社

○ 2018年8月、9月のスポット市場前の電源Ⅱ事前予約実績について、事後検証を実施。

事前予約量の算出方法（各コマ）

上げ調整力必要量（想定需要の7%＋太陽光下振れリスク）－ 電源Ⅰ・Ⅰ'確保量

※ 当該量が市場での電源Ⅱ余力想定量を超過する場合にのみ予約

※ 電源Ⅱ余力想定量は、実需給時点で出力を調整できる状態にすることが可能な
電源Ⅱのみを考慮

※ 電源Ⅰ'は、厳気象対応に影響を及ぼさない範囲で考慮

◆ 事前予約実績

	事前予約実績	（参考）事前予約日数
8月	なし	—
9月	なし	—

（参考）スポット市場後の事前予約実績

	事前予約実績	（参考）事前予約日数
8月	なし	—
9月	なし	—

○ 電源Ⅱ 事前予約量の算出に際し、従来の方法と比較し以下の点を変更したため、2018年8月、9月の事前予約の実績はなし。

○ 電源Ⅱ 余力想定量を新たに考慮

前頁の算定式で算出した量が、TSOが想定した電源Ⅱ 余力想定量を下回る場合は事前予約を実施しない。

〔補足：揚水発電所の余力について〕

九州では、太陽光の大量導入に伴い、昼間帯で揚水運転している断面が多く、最大8台の揚水動力（最大250万kW程度）で運転することが可能。

揚水運転が見込まれる断面においては、揚水運転を停止することで上げ余力を確保できることに加え、発電運転に切り替える分の容量も電源Ⅱ 余力として見込むことが可能。

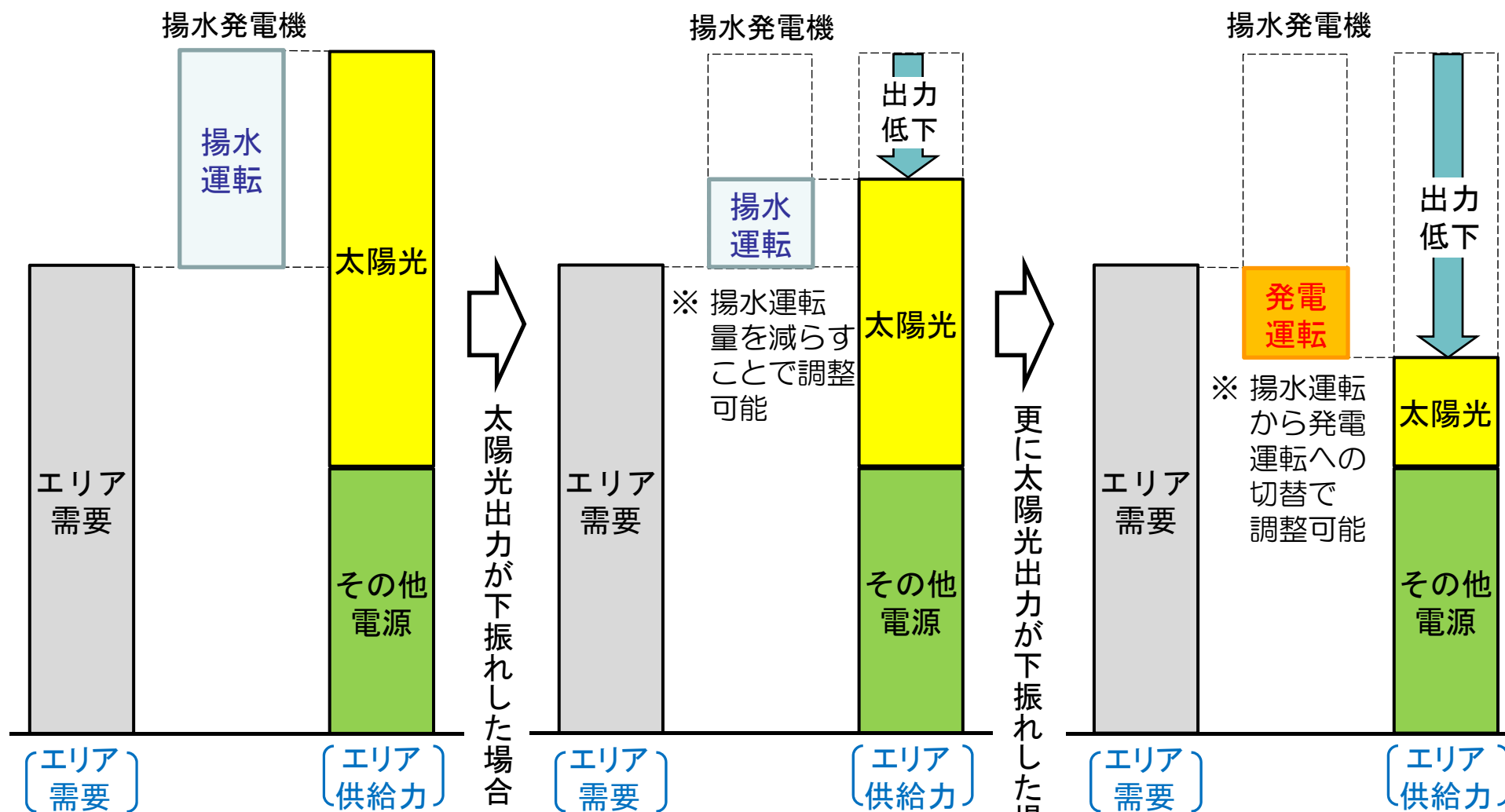
⇒ 昼間帯は電源Ⅱ の余力を見込みやすい傾向になっている

○ 太陽光出力予測精度の向上

昨年の秋以降、予測地点の追加（8箇所→47箇所）や日射量予測モデルの見直しなど、太陽光出力想定精度向上への取り組みを実施

⇒ 前々日予測値から実績の誤差は減少傾向

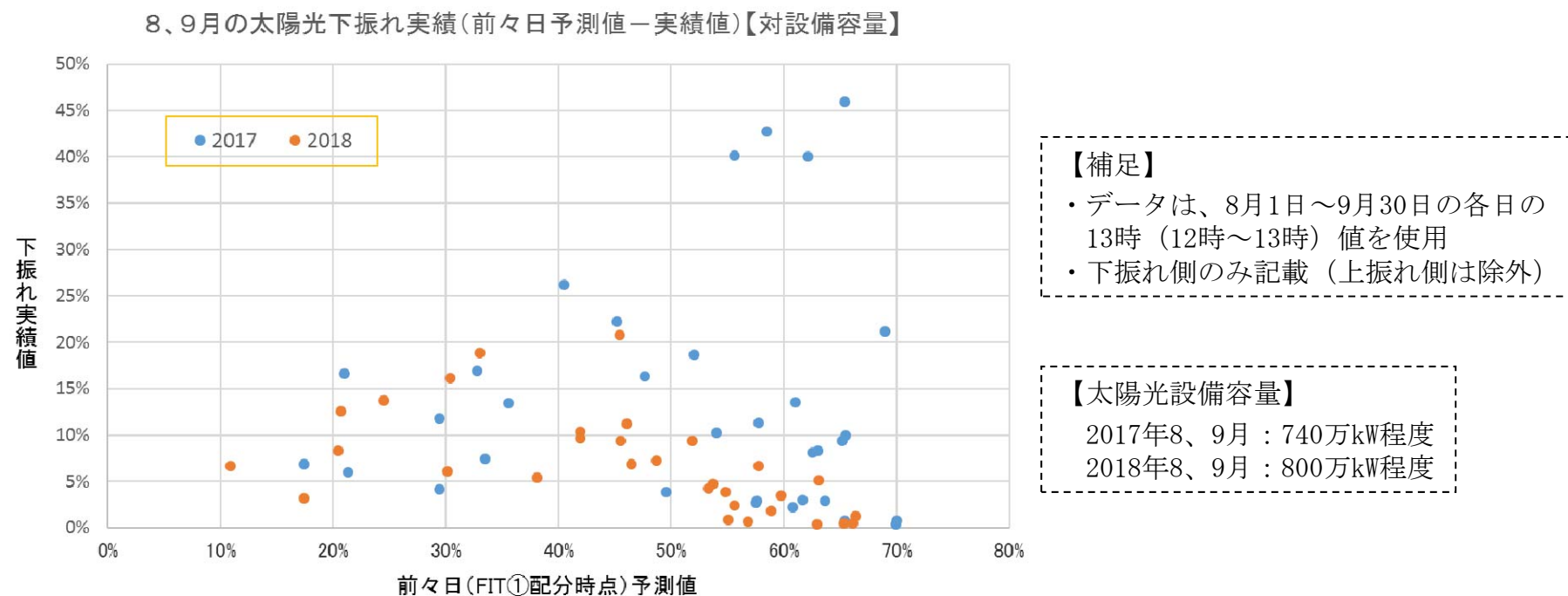
○ 上記のとおり対応することで、設備トラブル等の大きな状況変化がなければ、電源Ⅱ 余力により必要な調整力を確保できる見込みのため、当面、事前予約は不要となる見通し。



※ 太陽出力が大きい場合に
揚水運転で需要と供給の
バランスを維持

〔8月、9月の太陽光下振れ実績(前々日(FIT①配分時点)予測値と実績値との差)〕

○ 2018年度における前々日予測値からの太陽光下振れリスクは、2017年度と比較して減少傾向。



〔2017年度の事前予約実績〕

第31回 調整力及び需給バランス評価等に関する委員会資料より参照

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事前予約 コマ数	75 (5%)	173 (12%)	136 (9%)	273 (18%)	208 (14%)	105 (7%)	25 (1.7%)	13 (0.9%)	36 (2.4%)	96 (6.5%)	72 (5.4%)	19 (1.3%)

() 内は、月間総コマ数に対する比率

→ 太陽光出力予測精度向上により
予約コマ数が減少